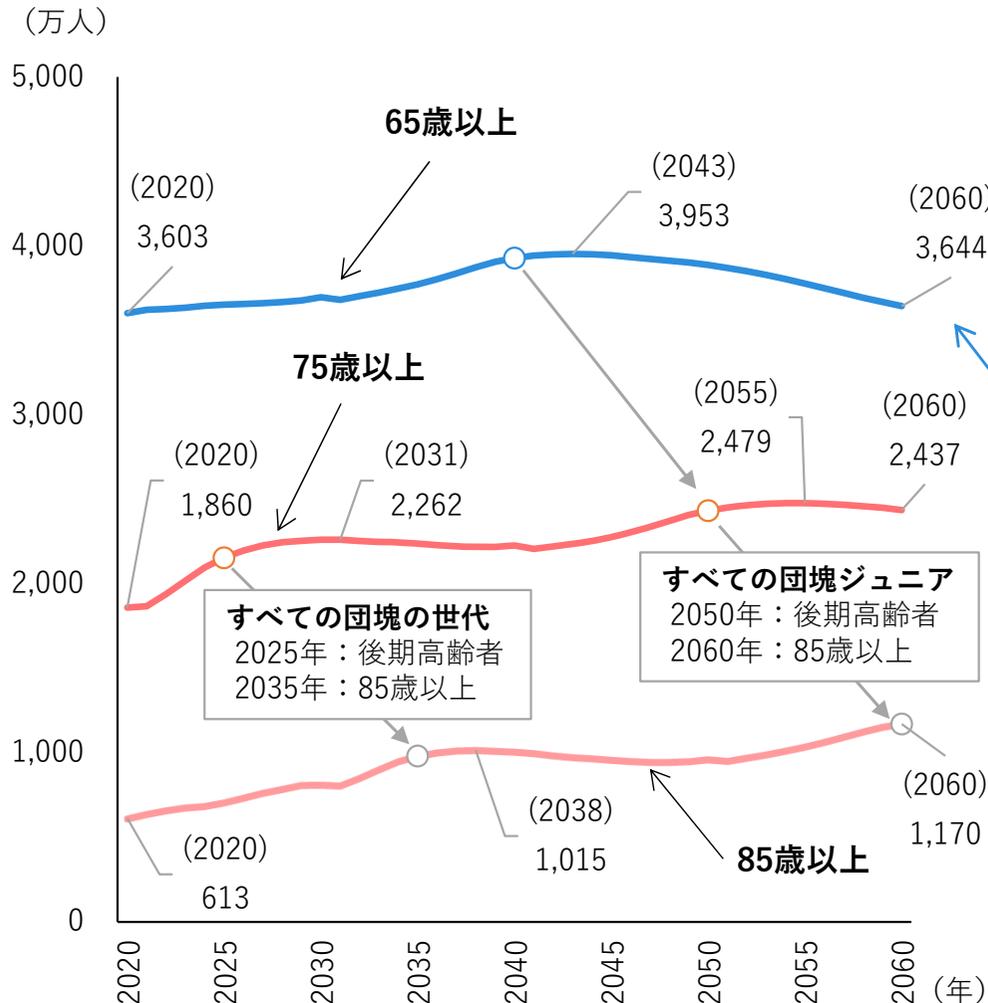


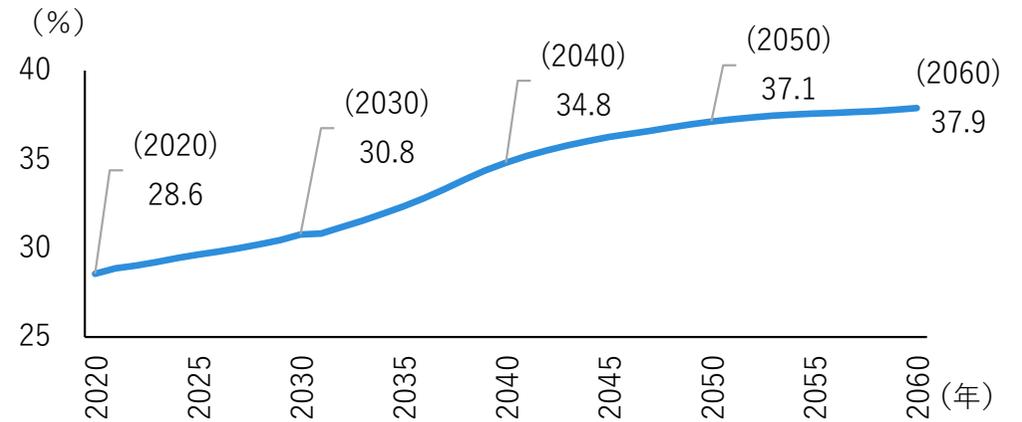
将来の人口動態を踏まえた経済・財政・社会保障の課題②

- 65歳以上人口は2040年頃にピーク。ただし、高齢化率は、若年人口の減少ペースが速く、その後も上昇。
- 医療費や介護費への影響が大きい75歳以上や85歳以上の人口は、長期にわたって段階的に増加する見込み。
- こうした将来の高齢化の波を乗り越え、社会保障や財政の持続性を確保する必要。経済の姿と一体的に、2060年度までの財政、社会保障（医療・介護）の姿を試算し、定量的に将来を展望。

高齢者人口



高齢化率（65歳以上人口比率）



【65歳以上人口】2040年頃（2043年）にピーク
【高齢化率】若年人口の減少ペースが速く、上昇を継続

【75歳以上人口】医療費への影響が大きい
【85歳以上人口】介護費への影響が大きい
⇒ 団塊の世代と団塊ジュニアの高齢化によって段階的に増加